

# 現代青年の人間関係構築に関する研究

## — ふれあい恐怖的心性と対人的傷つきやすさ及び親和動機の関連から —

山 本 莉 玖

### <目的>

本研究は、①ふれあい恐怖的心性と親和動機の関連の検討から、ふれあい恐怖的心性を有する青年が親和的な欲求を持っていることによってふれあい場面での困難さが増大するのではないかとすることを検討すること、②ふれあい恐怖的心性と対人的傷つきやすさの関連の検討から、ふれあい恐怖的心性の背景に対人的傷つきやすさが存在しているのではないかとすることを検討すること、③ふれあい恐怖的心性と過敏性自己愛傾向の関連を再検討するとともに、先行研究では行われていないふれあい恐怖的心性的特徴の強弱の程度と過敏性自己愛傾向との関連を検討することを目的として行った。

### <研究Ⅰ>

ふれあい恐怖尺度（岡田, 2002）、親和動機尺度（杉浦, 2000）、対人的傷つきやすさ尺度（鈴木・小塩, 2002）に因子分析を行った結果、因子構造は全ての尺度で原典通りの区分であった。

各尺度の下位尺度間の相関を検討した結果、親和動機尺度の「親和傾向」はふれあい恐怖尺度の2つの下位尺度と正の相関がみられ「拒否不安」はふれあい恐怖尺度の「関係調整不全」と負の相関がみられ、対人的傷つきやすさ尺度の「対人的傷つきやすさ」はふれあい恐怖尺度の2つの下位尺度と正の相関がみられた。

### <研究Ⅱ>

研究Ⅰと同様にふれあい恐怖尺度と親和動機尺度に加えて自己愛的脆弱性尺度短縮版（上地・宮下, 2009）に因子分析を行った結果、因子構造は全ての尺度で原典通りの区分であった。

ふれあい恐怖的心性の高低及びふれあい恐怖的心性の2つの側面の高低によって4つの群に分け、各尺度の下位尺度を従属変数とした1要因の分散分析を行った結果、ふれあい恐怖的心性的特徴を持たない青年は「親和傾向」が高く、ふれあい恐怖的心性的特徴を持つ青年は「拒否不安」と自己愛的脆弱性尺度の下位尺度の「自己顕示抑制」「承認・賞賛過敏性」が高いことが示された。

### <総合考察>

以上の研究から、ふれあい恐怖的心性を有する青年は人と親しくなりたいという親和動機を有しており、親しくなりたいという思いとは裏腹に自身の対人関係における関係調整の困難さがあることによる葛藤が生じることにより困難さを示していると考えられ、ふれあい恐怖的心性の背景には他者からのネガティブな評価に落ち込みやすい対人的な傷つきやすさが存在していると考えられる。ふれあい恐怖的心性的特徴を持たない青年の方が人と親しくなりたいという思いを強く持っており、ふれあい恐怖的心性的特徴を持つ青年は、他人から拒否されることへの不安を強く持ち、その結果として自己を顕示することを抑え、他人からの評価に対して過敏に反応してしまうのだと考えられる。